

# 夢をはぐくむ教育と巣立った芸術家たち



1921年 創立当時

お茶の水に、西村伊作先生が文化学院を創立したのは1921年のことです。文化学院の新しい校風は時代の文化を代表したらしく、大変新鮮に受けとられました。大正時代に中学部も大学部も男女共学というのは初めてで、目を瞠るほど新しくとっぴでさえありました。そのうえ制服はなく何を着ても自由で、派手な背広や当時流行っていたルパシカを着てくる長髪の男子学生や、短くカットした髪に乗馬服のようなスタイルの女子学生もあり、女優さんのように華やかな服装の学生もいました。

長岡輝子(女優・演出家)

いろんな人がいる。美人ではないが美しい人。ぼけているようで頭の良い人、偉くないんだが面白い人、いろいろとかわっている人達が文化学院を巣立っています。この学校は世間からみるとだいぶ変っているようです。何しろ変っている芸術家達が創った学校ですから…。

こんな企画をたてました。つまりこの学校を出たいろんな人の素晴らしい仕事とその出発点についてです。魅力ある人格から魅力ある仕事が生れるという文化学院の思想です。なおここに入れられなかった人達で素晴らしい人が沢山います。

「偉く有名にならなくてもよい。生まれた甲斐のあるよい人に…」

これが創立者西村伊作の言葉です。

文化学院校長 西村八知



谷桃子(舞踏家)

文学部に移ってから同人誌に書いた詩が文学部長の佐藤春夫先生のお目にとまって以来、詩や童話めいた作品を見ていただくようになった。忘れられないのは美術部長だった今泉篤男先生に教えられた宮沢賢治だ。図書室に備えられた十字版本の全集を読みふけた16才の日々。

学生もごく少人数だったので、偉大な先生方に甘えることができた私は、実に贅沢で幸せな時を過したと言えよう。

神沢利子(児童文学作家)



杉本苑子(作家)

私は文化学院に入ってどれくらい得をしたか判らない。

この学院に入って今まで別世界だった芸術というものが、しかも第一級のが身近に迫って来たので私は大へんに幸福であった。私の下手な素描を石井柏亭や有島生馬が手づから懇切に直してくれるのである。

そして紳士的な態度でユーモア混じりに忠告を与えてくれる。

のちに役者を演出するようになって私の心がけたのは役者の人格を認めることであった。世界で名のある演出家の演出ぶりを外国の俳優に聞いてみると「偉大な演出家は威張らない」と異口同音にいう。

私は偉大でないから、せめてそれにあやかろうと「やさしい演出を心がけている」のである。

飯沢匡(劇作家)



前田美波里(女優)



稲葉賀恵(デザイナー)



酒井はな(バレリーナ)



佐江衆一(作家)



安井かずみ(作詞家)

入館料: 一般 800円 大・高 600円 中・小 400円

※15名以上団体割引

夏 期: 7月15日~9月15日(入館は閉館30分前迄)

カフェ: “Rolling Pin” ミュージアムショップ: “Le Vent”

●JR長野新幹線「軽井沢駅」下車

又は、乗り継ぎ しなの鉄道「中軽井沢駅」下車 車で3km

\*夏期は両駅より路線バス運行

●上信越自動車道「碓氷・軽井沢IC」より12km

軽井沢バイパス18号「鳥井原」交差点(歩道橋)より杉方方向へ1.5km

●駐車場 20台収容

このちらしを御持参の方は、4名様迄、割引致します。